

# 古事記を読む会 28号 (2017,4,2)



春は名のみ～『早春賦』が思わず出てくるこの頃です。  
呉羽山の桜のつぼみも、ここに来ての寒さに震えているようです。

さて、本日は、29年度最初の『古事記を読む会』です。  
4月提案は今年幸運にも2回ご講話いただき、藤田富士夫先生をお迎えします。  
先生は、前富山市埋蔵文化財センター所長。現敬和学園大学非常勤講師。昭和49年に杉谷4号墳を発見し、その後日本海文化の認識が広がる契機をつくられた方です。平成19年には、考古学界で権威ある尖石縄文文化賞を受賞されています。著書多数。

3月5日の提案は、五十嵐顕房氏の「神話に見られる外来文化の伝来」であった。  
音読は、①別紙資料の「備後の国風土記逸文」の蘇民将来説話、②天孫降臨 P113～119、③神功皇后の新羅親征 P247～248。何度読んでも読みにくく、詰まったり読み返したりする。太子正勝吾勝々速日天忍耳命（おほみこまさかつあかつかはやひあめにおしほみのみこと）や 天爾岐志天津日高日子番爾々芸命（あめにきしくににきしまつひだかひこほのににぎのみこと）は特に読みにくい。提案は、海外から様々な文化が入ったことや神話や伝承に残されていることが伝えられた。稲の伝搬ルートと絡み、揚子江流域に今も残る高床の住居は、日本の神社と酷似していることなどにも触れ、風土記や日本書記の紹介もあった。資料も多く添付され、それに関して意見が出た。天孫降臨の・日向三代の神統系図では、天照大御神を持統天皇とすると、ニニギ命が文武天皇にあたる。神功天皇の新羅親征は朝鮮半島の国々ではそのような遠征は無かったと否定している。さらに天皇の紀年について、出された資料からこれまでの自分の年代観を見直した。古事記を読むところを入れての提案が続いているが、何度も読んでもなかなか上手く読めない等であった。

引き続き、総会の議事が進められ、28年度の4月から提案者・課題の確認。会計報告があった。29年度の計画案では、開催日時の確認と今年度の講師藤田富士夫先生の2回分のテーマを伝えた。また、会則の年会費を2千円とし、ご承認を得た。

今回は、講師の藤田富士夫先生の講話であるが、昼食を一緒にしてはどうかという提案にも賛同を得、春の楽しみ会食とする。薬膳弁当（1500円）を手配した。

## 今後の予定

- 4月2日 藤田富士夫先生 「八千矛神の歌物語」  
9月24日 or 25日には、朝日町でヒスイフォーラムⅢが開催される。  
講師に三浦先生が来られる等、楽しい内容が計画されている。
- 5月7日 服部征雄氏
- 9月3日 藤田先生の第2回  
「常世の国から持ち帰ったもの」「久米歌と三輪の大物主」
- 6月4日 以降の提案希望者募集!! 7月2日、10月1日、11月5日、12月3日